

## 令和4年度(2022年度)第1回南大沢中学校区地域づくり推進会議 議事概要

日時	令和4年(2022年)5月28日(土)10:00~11:30
場所	南大沢中学校 3階家庭科室
出席者	参加者：飯田、柿島、木村、佐藤、瀬谷、高津、高橋、田中(茂)、田中(麻)、廣田 高齢者あんしん相談センター南大沢：青山 はちまるサポート由木：関根 第1層生活支援コーディネーター：今泉 八王子地域PAL-ETTE：今居、黒田 未来デザイン室：今川、野田、橋本
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和4年度(2022年度)第1回南大沢中学校区地域づくり推進会議資料</li> <li>・ 南大沢中学校区地域カルテ</li> <li>・ 長房中学校区地域づくり推進計画(概要版)</li> <li>・ 川口中学校区地域づくり推進計画(概要版)</li> </ul>

### 1 開会

未来デザイン室から挨拶。

### 2 オリエンテーション

本日の検討内容の確認。

### 3 議題

#### (1) 地域カルテについて

##### ア 取りまとめ過程の確認

会議資料をもとに、第4回「南大沢中学校区地域づくり推進会議(以下「推進会議」という。)」において検討した南大沢中学校区地域カルテ(以下「カルテ」という。)について、掲載承諾が必要な団体等への確認、掲載内容に関連する関係所管課への確認、他の中学校区の掲載内容を踏まえた最終調整を行ったうえで取りまとめをしたこと、各成果品の一般公開は、広報はちおうじ(6月15日号)からとなること、南大沢中学校区に転入してくる方へはカルテを別途配布することを説明した。

⇒質問・意見なし

##### イ 配布先及び配布場所

会議資料をもとに、配布先はカルテの作成に関わっていただいた方に対し紙媒体で配布すること、配布場所は紙媒体での配布を絞ったため、誰でも地域づくりに興味を持った方が入手しやすい身近な施設で配布すること、配布場所のなかでも、公共施設については、他の中学校区で作成した各成果品すべてを配布することを説明した。

⇒質問・意見なし

##### ウ 意見交換【テーマ】電子媒体での発信方法

会議資料をもとに、紙媒体での配布を残しつつ、地域に関わる多くの方々に電子媒体で周知するためにはどのような手法があるか。また、今後どのような手法があれば電子媒体での情報発信・受信がしやすくなるかについて意見交換を行った。主な内容は、以下のとおり。(詳細は、令和4年度(2022

<主な意見交換内容>

- ・子ども食堂をやっており、高校生や大学生と接する機会があるが、子ども食堂の情報をどのようにしたら入手できるか聞かれる。Facebook で発信をしているものの、若い世代には届いていない。若い世代が情報を入手する手段として SNS ではなくホームページから情報を得ているようだ。わざわざ Facebook に登録する人もいないため、SNS での情報発信は避けたほうが良い。  
→例えば、団体の活動情報の一部だけ必要という場合、Facebook 等に登録をしてまでは情報を得ようとしな。効率よく情報がほしいのではないか。(参加者)
- ・八王子市の公式 LINE に登録しているが、そこにカルテが出来たというお知らせとともに、掲載場所のリンクを貼付することで、簡単に見ることが出来る。  
→必要な情報に直接たどり着けることが重要だということか。(PAL-ETTE)  
→そうだ。二次元コードを使用するのも効果的である。(参加者)
- ・市役所が情報を発信するツールとして、LINE や Facebook などがあるが、どのくらい登録者数があるのか教えてほしい。そうした情報がないと、こういった情報発信の手法が効果的なのか議論が出来ないのではないか。  
→八王子市は分野ごとに Facebook が作られており、八王子市広報の Facebook を見ると現在約 4,000 人、八王子市の公式 LINE では約 13,000 人の方に登録いただいている。現在八王子市の人口が約 570,000 人なので、Facebook については、登録者数がやや少ないかもしれない。(未来デザイン室)  
→次回以降で良いので、南大沢事務所、南大沢図書館、南大沢保健福祉センターなどについても、個別に地域情報を発信しているのか教えてほしい。(参加者)  
→ホームページを個別に持っている部署もある。南大沢保健福祉センターで一番効果的だったのは、市の公式 LINE を使った時だった。掲載した直後は、多くの問い合わせをいただいた。(PAL-ETTE)  
→由木マルシェの LINE の登録者数は 2,000 人程度だが、情報を流すとリンクを貼付したホームページのアクセス数が 2 日間くらいは多くなる。(参加者)  
→地域のつながりのみで情報を届けようとする、どうしても行き届かない。市で持っている方法を駆使して、地域の人すべてに情報が届くようにすべき。(参加者)  
→市では、子育て世代向けの LINE も作成中である。市全体の傾向として LINE を使った情報発信に移行している状況である。(PAL-ETTE)  
→学生の立場としては、LINE だと知らない情報も流れてくるので、若い人だと登録しない人もいるかもしれない。(参加者)  
→誰にこの情報を届けたいのかということを第一に考えるべき。発信したい対象が高齢者であれば、必ずしも SNS を活用する必要はない。知りたい情報を必要な人が得られるような仕組みが必要なのではないか。(参加者)  
→カルテの情報が一括で掲載されていても、見る人は少ないと思う。子育てや高齢者の情報など、欲しい人がすぐに入手できるように、ホームページへのカルテの掲載方法を工夫してほしい。(参加者)  
→項目ごとに分割したデータをホームページに掲載する。(未来デザイン室)
- ・電子媒体での発信としてできることとしては、カルテのデータ自体を見てもらうことが一つと、

カルテの配布場所を周知することの二つの方法が考えられる。このカルテのページ構成からすると、冊子の方が見やすいと思うので、配布場所の周知を電子媒体で発信するのが良いのではないか。

- ・八王子市の公式 YouTube も約 4,000 人登録者がいるので、カルテを紹介する動画を作ってみるのも良いのではないか。
- ・このカルテの周知は、推進会議の参加者で行っていくことなのか。  
→市としてのツールは活用して周知をしていくが、地域のなかでも出来る範囲で周知をしていただきたい。(未来デザイン室)
- ・電子媒体での周知の目的としては、カルテを知らない人に知ってもらう、知ってもらった後に活用してもらうということがある。市のホームページも利用者に寄り添う形で、その情報を見てほしい人向けのページを作成するとか、アクセスを増やすためにはどうしたら良いか考えていく必要がある。  
→たとえば、カルテの中で最も魅力的だと思うページだけを印刷して、全戸配布をするというのも良いのではないだろうか。そこにカルテ全体の情報を掲載しているホームページの二次元コードを掲載するのも良いかもしれない。(参加者)  
→カルテの一部やチラシを使って、地域カルテを掲載しているホームページに誘導し、そこで対象ごとに情報が分けられているというかたちが良いかもしれない。(PAL-ETTE)
- 本項目について様々な御意見をいただいた。今後、関係団体のホームページにリンクを貼れるよう未来デザイン室から働きかけをしていくとともに、情報の受け手が必要な情報を入手できるような取組を行っていく。(未来デザイン室)

## (2) 令和4年度(2022年度)における地域づくり推進会議の運用について

### ア 本市が目指す地域づくりとは

会議資料をもとに、本市が目指す地域づくりとは、「共に支えあい、担いあう地域社会の実現」、「地域のすべての力を最大限に活用」、「地域における自立的・主体的な課題への対応」、「全市規模の施策を地域単位への施策へ転換」を実現させていくこと、これらを実現するためには、各中学校区に設置する推進会議の運営体制や方法などを検証する必要があると、令和3年度(2021年度)から長房・川口中学校区をモデルとして、また他の地区に先行して南大沢・みなみ野で取り組んでいること、市役所も地域づくりの実現に向けて変えていく必要があることを説明した。

### <主な意見交換内容>

- ・推進会議資料の5ページの中に記載されている「地域のあり方」の図の中で、「町会・自治会」と一括りに記載されている。管理組合なども含めた表現にすべきなのでは。  
→この図が市役所の考え方を良く表している。南大沢には町会・自治会がほとんどない。南大沢町会以外は団地単位で形成されており、公営も民間も両方ある。そういった地域の特殊性を、市自体が理解していないのではないか。(参加者)  
→どうしても市が表現すると、一律的なものになってしまう。この地域であればこういった仕組みが当てはまるのか、地域単位で考えていく必要がある。(未来デザイン室)
- ・南大沢小学校の今年の1年生は8人となっている。この状況は6年後に中学校の生徒数に反映される。資料の中では、8050問題やダブルケアの問題が記載されているが、南大沢では子どもの数が少なくなっているというのが一番の問題と言える。この問題を解決するためには、まず南大沢

に住んでもらうために、魅力的な団地をつくるといったことも必要となる。市として南大沢を住みやすくするために、こういう考えを持っているということを書いてほしい。ただ人口が減っていくということを伝えられるだけでは問題の解決にならない。(参加者)

→地域の人口が減っているというのは、住民の責任ではなく、市の責任であり、市としてのまちづくりの方向性を示してほしい。(参加者)

→いくら住民がカルテを使って魅力を発信しても、集合住宅の老朽化が進んでいるため、引っ越し先として選択してもらうことが出来ない。南大沢はほかのニュータウンよりも早く開発されたため、市と公団で話し合うなど真剣に考えてほしい。(参加者)

→地域の実態を正確に把握し、資料のイメージ図が絵空事にならないようにしてほしい。(参加者)

→資料に記載してある図は、一般的なこととして表現している。市では事業の大枠を決めることは出来るが、細かい仕組みについては地域ごとの状況に合わせて作っていきたいと考えている。南大沢の実態について、推進会議を通じて様々な方から情報をいただきながら把握し、どういった仕組みが南大沢に合っているのか、皆さんと一緒に考えていきたい。どこを目指すのかという方向性についても地域ごとに異なるのではないかと考えている。引き続き、皆さんから御意見をいただきながら、市全体で共通することと、地域ごとに異なることを一緒に考えながら進めていきたい。(未来デザイン室)

#### イ 令和4年度(2022年度)における地域づくり推進会議の目標

会議資料をもとに、令和4年度(2022年度)における推進会議の目標は、「地域の将来ビジョンの決定」、「アクションプランの項目決定」、「地域で主体的に会議運営できる体制案の構築」であることを説明した。

⇒質問・意見なし

#### ウ 各団体の参加者変更に伴う手続き及び推進会議への関わり方

会議資料をもとに、役員改選等に伴い参加者を変更する場合は、再度団体の代表者から推薦書の提出をお願いしたいこと、参加者が変更となったとしても、引き続き、推進会議に関わっていただきたいことを説明した。

⇒質問・意見なし

#### エ 意見交換【テーマ】令和4年度(2022年度)の地域づくり参加者について

地域づくり推進会議において地域全体のことを議論するにあたり、どのような方の参加が必要か、意見交換を行った。主な内容は、以下のとおり。(詳細は、令和4年度(2022年度)第1回南大沢中学校区地域づくり推進会議 ワーク内容)

##### <主な意見交換内容>

・南大沢は東京都がニュータウンとして作ったまちになるので、東京都の職員に参加してほしい。この推進会議で話し合った内容などを東京都に伝えてもらえるならば良いが、今は伝わっていないと思う。また、東京都のスマートシティ協議会でやっている内容についても市には伝わっておらず、東京都が勝手に進めている印象を受ける。

→たとえば、毎回の参加でなくても必要に応じて参加してもらうということも考えられるが、

どうか。(未来デザイン室)

- 資料をちゃんと共有してレスポンスをもらうこと、連携することが大切だと思う。せっかく会議で良い話が出て、そのまま終わってしまうというのが今までの流れ。(参加者)
- ・子育て世代の参加者として、育休・産休中の方であれば時間も取りやすく、参加しやすいのでは。
- ・子ども食堂に来ている中学生が、推進会議を見たいという話をしていた。推進会議を傍聴できるシステムがあっても良いと思う。
- コロナ禍もあって、今は積極的に傍聴の案内を行ってはいないが、推進会議の考え方として、地域に住んでいるすべての人を構成員としている。そのため、推進会議にふらっと来て皆さんの意見を聞きつつ、発言できるような会議の場にしていきたい。(未来デザイン室)
- 中学生も推進会議の資料だけを見ると「難しそう。」と言っていたが、実際に推進会議を見て体験することで、将来「大人たちは地域のためにこういうことを話していたのか」という認識を持ってもらえるのではないか。生徒会やボランティア部の子ども達なども参加してもらえると良いのでは。(参加者)
- 話し合いのテーマによっては、ぜひ中学生にも参加してもらいたい。(未来デザイン室)
- 子どもの事は子どもに聞くのが一番良い。それぞれのテーマに応じて、必要な人から意見を聞くことが大切。(参加者)
- ・推進会議の参加者より、もう一回り年齢が上の高齢者に参加してもらう必要があるのでは。様々な苦勞をしながら生活している人が多いと思うので、そういった方々の意見を聞いた方が良い。(参加者)
- ・市役所として推進会議は地域を代表する組織とみなすのか。
- 市として、推進会議の位置づけ、役割については仕組みを構築していく中で検討していく予定である。地域と行政の役割分担をどうしていくか、どういった権限を地域に持ってもらいか、全庁的に検討していく。(未来デザイン室)
- ・まちづくりは都市計画とも絡む話なので、市の担当部署の人に推進会議に来てもらい、説明をしてほしい。
- 検討内容に応じて、担当部署の職員を推進会議に呼ぶことは可能。(未来デザイン室)
- 地域の声が行政に届き、こういう風にまちが変わったということが目で見て分かるようになれば、南大沢に住みたい、住み続けたいという人も増えるのでは。(参加者)
- ・元気に活動する高齢者として、シニアクラブから代表を推薦してもらうのはどうか。
- ・地域づくりで具体的な動きをする時に、南大沢三丁目商店街の方に参加してもらうのはどうか。
- 防災活動でも商店街の方に声を掛けたが、忙しくて参加は難しいという回答だった。推進会議の活動を知ってもらうために、情報共有だけでもするのはどうか。(参加者)
- 一旦、お声掛けして、参加が難しいということであれば情報提供に留めるものとする。(未来デザイン室)
- ・この地域の特徴として大学があることが挙げられる。南大沢のまちについて助言していただけるような方が必要なのでは。
- 南大沢在住で大学を退職された方もいる。そういった方に参加してもらうのも良いかもしれない。(参加者)
- 個人的に地域の活動に携わっている先生もいるが、それはその先生の意欲があるからである。その先生がいなくなると、繋がりが無くなってしまう。大学との連携ということで、市が都

立大学の事務局に掛け合ってもらいたい。都立大学は南大沢のシンボルとなっていて、地域の一人だということを大学側にも認識してほしい。(参加者)

→市として大学に掛け合ってみるが、調整が難しかった場合は、参加者の皆さんの繋がりから御紹介いただきたい。(未来デザイン室)

・子育て世代として、学校運営協議会に入っている南大沢保育園の保護者の会に声を掛けてみるのも良いかもしれない。

→子育て世代の方も常時参加が良いか。(未来デザイン室)

→その方が良い。(未来デザイン室)

- 本項目について様々な御意見をいただいた。各関係団体等には一度事務局からお話をさせていただき、次回の推進会議にて調整状況を報告する。

#### 4 意見・情報交換「みんなにシェア・みんなでシェア」

参加者に共有したい情報をお話いただきたい旨説明。主な内容は、以下のとおり。

##### <情報交換の内容>

・市の職員が住民の意見を聞いて、みんなで良い未来をつくってほしいという推進会議の取組は非常に良いことだと思っている。この会議が目標としている、地域の人がゆるやかに繋がって、輪を広げていくという取組を実践している事例があるので紹介したい。

掛川市における住民の取組で、明治時代の日本酒を復活させようと、田植え、稲刈り、収穫、仕込みまで地元の有志が集まり行っている。蔵出しの時には地域の子どもから大人まで集まってお祝いをし、年々参加者も増えている。季節ごとに地域の人が集まって手や体を動かし、それが生きがいにつながるような取組が南大沢にもあったら面白いと思った。(参加者)

・オンラインツアーガイドの仕事をしており、相模原市から子ども達がオンラインツアーを自分達でやるための授業をしてほしいという依頼があった。これは、コロナの影響で観光客が減ったことから、地元の商店を応援するために行ったもの。小学生たちも自分達でオンラインツアーを行ったことで、相模原市に愛着がわいたという声や、もっと地域のごみ拾いやボランティアなどの活動に参加したい、もっとまちの良いところを広めたいという声もあった。大人よりもパソコンに詳しい小学生もいたので、子どもが高齢者にパソコンの使い方を教える講座などを行えば、子どもと高齢者をつなぐ取組になると思った。(参加者)

・八王子市の観光大使になっているフラチナリズムのメンバーと仲良くさせてもらっているのだが、地元の八王子で認知度が低いとの話があった。八王子市内のオープンスペースでライブをやりたいとのことだったので、会場の情報など御協力いただける方がいたらお申し出いただきたい。(参加者)

・日本閣でショートフィルム映画祭を開催しており、今年で10回目となる。その委員をやっていることから南大沢でも開催してほしいという話をしたら、過去2回開催しているとのことだった。ただ2回とも人を集められなかったそう。人を集められれば日本閣にも協力してもらえる可能性がある。そうした映画祭を南大沢でやってみるのも面白いと思う。(参加者)

・南大沢自主防災協議会でツイッターを始めた。毎週月曜日の出勤時間帯につぶやいているので、ぜひ見てほしい。(参加者)

・ボランティア団体のバラエティクラブで、日中寝たきりの人の家事支援をしている。コロナで寝

たきりの人が増えてしまい、人手が足りない状況となっているので、現役世代の方で日中御協力いただける方がいたら、ぜひボランティアの登録をしていただきたい。(参加者)

- ・ 昨年の夏休み、コロナの影響でラジオ体操が無くなったことから、子ども達が夜更かしをし、朝遅くまで寝てしまうという、生活リズムの乱れについて、母親達からたくさんの声をもらった。そこで、駅前のパン屋「ルパ」に御協力いただき、廃棄になるパンを夜もらいに行き、翌日の朝に子ども達に配布をするという取組をした。今年も同様の取組ができればと思っているので、スタッフとして手伝ってくれる方を募集している。(参加者)

#### 閉会

令和4年度(2022年度)における推進会議の日時について、地域全体の行事・イベントと重複していないかの確認とともに、第2回推進会議全体会の日時を伝えた。なお、重複している場合は、令和4年(2022年)6月3日(金)までに事務局へ連絡するように依頼した。

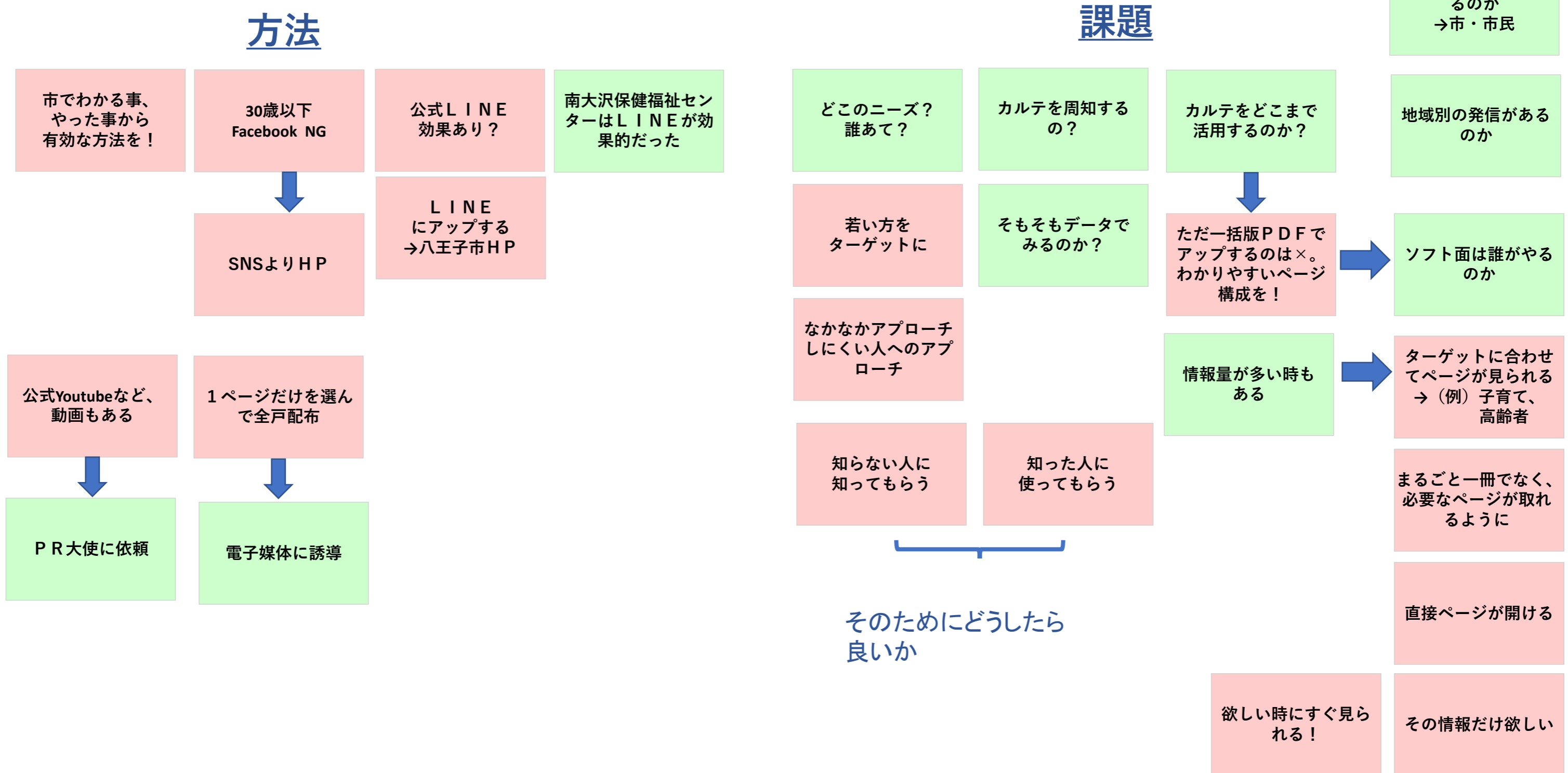
○第2回：令和4年(2022年)7月23日(土)9:30~12:00 南大沢中学校家庭科室(予定)

以上

# 令和4年度（2022年度）第1回南大沢中学校区地域づくり推進会議 ワーク内容

## 電子媒体での発信方法

（紙媒体を残しつつ、地域に関わる多くの方々に電子媒体で周知するためにはどのような手法があるか）





# 令和4年度（2022年度）第1回南大沢中学校区地域づくり推進会議 ワーク内容

## 令和4年度（2022年度）の地域づくり推進会議参加者について

